

前回にひきつづいて、外国との関係について、書きたいと思います。ヨーロッパの歴史は戦争の歴史と言っても良いくらいだと思いますが、この度、EU（欧州連合）がノーベル平和賞を受けました。隣合ったドイツとフランスなどは、数多くの戦いをして、多くの人々が死んで、大いにいがみ合っていたことでしょう。ところが、それらの国が一つの組織としてまとまり、平和に進んでいこうと努力しているのですから、なるほど平和賞を受けても、その値打ちがあるのかなと思います。

一方で、日本と近隣の国々の関係は、このようにはうまくいきません。共に助け合って伸びようというより、変なライバル意識と、変なねたみが常に存在しているように感じています。オリンピックなどの競技を見ていても、露骨な日本に対するブーイングなどが起こるといやーな感じになる日本人も多いのではないのでしょうか。

日本人は、そのようなことに惑わされず、しっかりと平和な国を作っていくしかないと思います。人々がもつと「おとな」にならなければ、ヨーロッパのような関係は、アジアでは無理なのかなと思ってしまいます。戦争をすれば、日本と中国のどちらが勝つか議論になり、ひとりが殺されるという事件が、中国で起こりました。そんな議論が始まること自体、悲しいことだと思います。

今回のど〜んとコミュニケーションでわたしが書いた内容について、2名のかたから抗議をいただきました。「そもそも尖閣諸島に・・・以上の値打ちがあるのでしょいか。」という部分です。命をかけて守っている人もいるのに、何たることかということでありました。誤解を与えてしまったことをお詫びします。「日本人はあくまで冷静である一方、中国の人々のあの激しさにはある種の戸惑いを覚えます。」という文章の次に、中国の人々が現在とっている行動をあげ、その行動で壊されていく日中間係や工場、デパート、車などと、尖閣諸島を比較したものです。「中国人にとつて尖閣諸島に・・・」と書けば誤解を与えなかったのにと反省しております。

今回、久しぶりにご意見をいただきました。これがど〜んとコミュニケーションをはじめた意義でもありましたので、ある意味では良かったと思います。これからもご意見がありましたら、よろしくお願ひいたします。



木田市長の



vol.83

ノーベル平和賞



人権文化の
花を咲かせよう

vol.122

「家族の日・家族の週間」をきつかけに、家族や地域の大切さ、また生命の大切さと家族の役割について、考えてみてはいかがでしょうか？

期間中には、「家族の日」に合わせ、家族や地域の大切さなどについて呼びかけるための全国大会が実施されます。みなさんも、「家族の日」「家族の週間」をきつかけに、家族や地域の大切さ、また生命の大切さと家族の役割について、考えてみてはいかがでしょうか？

